

【暗唱聖句】

「そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」マタイによる福音書 9 章 38 節

【日曜日・小グループ—当初からかみのお考え】

天地創造のとき、父なる神、御子なるイエス・キリスト、聖霊の三位一体の神様が共同で創造の働きを行いました。いうなれば父なる神様はデザイナーであり、御子は聖霊と力を合わせて施工されたわけです。三位一体の神様の共同作業は、キリストの十字架と復活の中にも現わされています。

「わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」ヨハネ 10 章 17、18 節

ここに、イエス様は自ら十字架で命を捨て三日後に復活したことは、父なる神から受けた掟であり、自ら命を捨てるがゆえに、父なる神はイエス様を愛してくださるのだとイエス様は言われました。この言葉から、自ら十字架にかかって死なれたイエス様の背後には、常に父なる神がおられたことがわかります。

「もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かして下さるでしょう」ローマの信徒への手紙 8 章 11 節

また、イエス様を復活させたのは父なる神であり、聖霊の力によって復活が起こったことが書かれてあり、キリストの十字架と復活には、聖霊も深く関わっていることがわかります。

この三位一体の神様の共同作業を、小グループに置き換えることができます。神様は共同で一つの働きをされます。私たちも小グループを作り、互いに学び・祈り・励まし合い・神様の働きを成し遂げていくのは、神様の御心なのです。

【月曜日・聖書の中の小グループ】

聖書の中の最初の具体的な小グループモデルは、モーセの出エジプトに見ることができます。何もかもを一人でやっていたモーセに、義父のエトロが次のように提案するのです。

「あなたは、民全員の中から、神を畏れる有能な人で、不正な利得を憎み、信頼に値する人物を選び、千人隊長、百人隊長、五十人隊長、十人隊長として民の上に立てなさい。平素は彼らに民を裁かせ、大きな事件があったときだけ、あなたのもとに持って来させる。小さな事件は彼ら自身で裁かせ、あなたの負担を軽くし、あなたと共に彼らに分担させなさい」出エジプト記 18 章 21、22 節

何か問題が起こるたびにすべてモーセがそれを裁くのではなく、千人・百人・五十人・十人の長をそれぞれ選び、小さな問題が生じたときはその中で解決するようにさせました。このようなそれぞれのグループは、問題を解決するだけでなく、問題を未然に防ぎ、霊的な生活や親密な関係を深める交わりの場ともなっていました。最少単位は 10 人でしたが、小グループで理想とされる人数は 6~12 人とされており、まさにその範囲の中に納まる人数でした。

「そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。朝になると弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。」ルカ 6 章 12、13 節

イエス様がたくさんいた弟子の中から 12 人を選び出し、小グループを形成しました。その目的は、このグループを通して霊的な育成を行うことと、奉仕の方法を学ばせることでしたが、数が多ければ良さそうに見えるかもしれませんが、その数は 12 名だったのです。

【火曜日・奉仕のために組織化する】

小グループという考えは、教会の中で突然生まれたものではありません。聖書の中にも、その大切さが教えられているのと同時に、エレン・G・ホワイトもその大切さを語っています。

「クリスチャンの取り組みの基礎として小グループを作るようにと、神から私は示された。教会に多くの人がいるなら、小グループに分け、教会員のためだけでなく、未信者のためにも働かせない。真理を知る人が数人しかない場所では、彼らを一つの働き人の集団にしなさい。彼らの絆が壊れないようにし、愛と一致によって団結し、励まし合って前進し、他の人の助けによって各自が勇気と力を得られるようにしなさい」(教会への証第7巻 P21, 22)

第一コリント 12:12~25 にかけて描かれているように、小グループに属する人々も教会と同様に一つの体です。タラントや役割は異なっても、一つの体として機能するとき、良い小グループとして成長することができます。

【水曜日・新約聖書時代の小グループ】

初代教会は小さな集団から数年の間に数万人規模の礼拝者に膨れ上がって行きました。この背景には、聖霊の働きと共に、小グループがありました。

「毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」使徒言行録 2:46、47

初代教会における小グループは、単に聖書研究のために集まってきたグループではなく、持ち物を共有し、共に生活する生活共同体的な位置づけでありました。しかし、閉鎖的なグループではありませんでした。主は日々新たなメンバーを加えていったのでした。また、メンバーの色々な人の名前が度々登場します。これはそれだけ親密な関係であったことを意味しています。

【木曜日・小グループの力】

小グループは教会の礼拝だけでは体験できない信仰者との霊的な交わり場となり、思いやりやぬくもり、霊的に成長する機会を提供してくれます。

「ペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた」使徒言行録 12章 12節

マルコの母親の家でも小グループが開催されていたようですが、そこでも彼らは集まって祈っていました。

「祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした」使徒言行録 4章 31節

初代教会の小グループでは、共に祈り、聖霊に満たされて、福音を述べ伝えに出ていくグループであったことがわかります。

イエス様は「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」(マタイ 9:36、37)と弟子たちに言われましたが、小グループはまさにその祈りの応えとなっていました。